

第2回新白石高校活性化 チーム会議（仮称）資料

令和元年11月21日（木）13:30～

於：白石高校普通科キャンパス会議室

新白石高校活性化チーム会議（仮称）委員名簿

資料1

（新設）佐賀県立白石高等学校

【委員名簿】

	役職名	氏名	備考
1	委員	久原 美穂	白石町（企画財政課）
2	委員	中川 君隆	大町町（教育委員会）
3	委員	米田 貴美	江北町（政策課）
4	委員	徳廣 正毅	学校関係者・議長（校長）
5	委員	北島 直幸	学校関係者・副議長（校長）

【事務局】

1	事務局	上赤 真澄	学校関係者（副校長）
2	事務局	椛島 秀樹	学校関係者（教頭）
3	事務局	溝口 俊彦	学校関係者（事務長）
4	事務局	塚本 直樹	学校関係者（事務長）
5	事務局	緒方 秀樹	普通科キャンパス代表
6	事務局	筒井 暢一	普通科キャンパス代表
7	事務局	真島 益子	商業科キャンパス代表
8	事務局	野崎 俊吉	商業科キャンパス代表
9	事務局	御厨 久充	商業科キャンパス代表
10	事務局	門田 芳彦	コーディネーター

「地域とつながる魅力ある高校づくり事業」

第2回新白石高校活性化チーム会議

「チーム名」について

普通科キャンパス（全生徒から公募）

- ・「明るい未来へ地域と高校つなぎ隊」
- ・「夢を形に～魅力あるチーム白石！」
- ・「夢を形に、未来を笑顔に、地域とつながるチーム」

商業科キャンパス（全生徒から公募）

- ・「つなぐ∞つながる プロジェクト」
- ・「地域と高校を一つにするっ隊」
- ・地域活性化「Kishima's」

「チーム名」 ~ ESD in KISHIMA ~

(Education for Sustainable Development)

「持続可能な社会づくりの担い手を育む教育」を推進する新白石高校プロジェクト

《プロジェクトの目的》

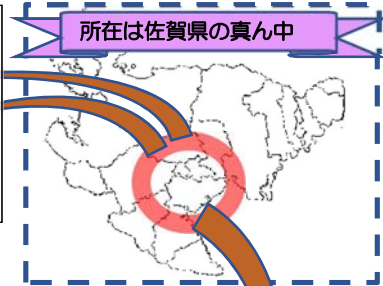
生徒達が地域との体験的、実践的な取組を通して、地域資源の発見や見直しを行い、地域課題の解決につながる価値観や行動について考えを深め、地域を愛する心を育み、持続可能な地域社会を創造できる力を育成する。

「チーム名」のめざす学校とは？

- ◎ 地域の生徒が**行きたい**と思う学校
- ◎ 地域との連携を通して、**探究的・実践的な教育を実現**する学校
- ◎ 地域**活力の向上**に生徒自らが**貢献できる**と思うようになる学校
- ◎ 地域にとって**次代の担い手**を輩出する学校
- ◎ **地域に愛され、地域に信頼される**学校

目的の達成に向けた基本方針とは？

- ◎ 「**2つのキャンパス**」で学科の強みを活かし
- 「**3つの町**」と連携しながら
- 「**4つのワーキンググループ**」で取り組む
- ◎ **PDCAサイクル**によるブラッシュアップ



4つのワーキンググループ

大学・専門学校 WG

地域に根差した近隣の大学や専門学校等と連携し、体験入学などを通して進学に対する意識を高揚させ、将来のキャリア形成について考えるとともに、持続可能な地域社会の創造について考えを深める。
《取組事例》大学・専門学校への体験入学 講演会の開催 等

小・中学校 WG

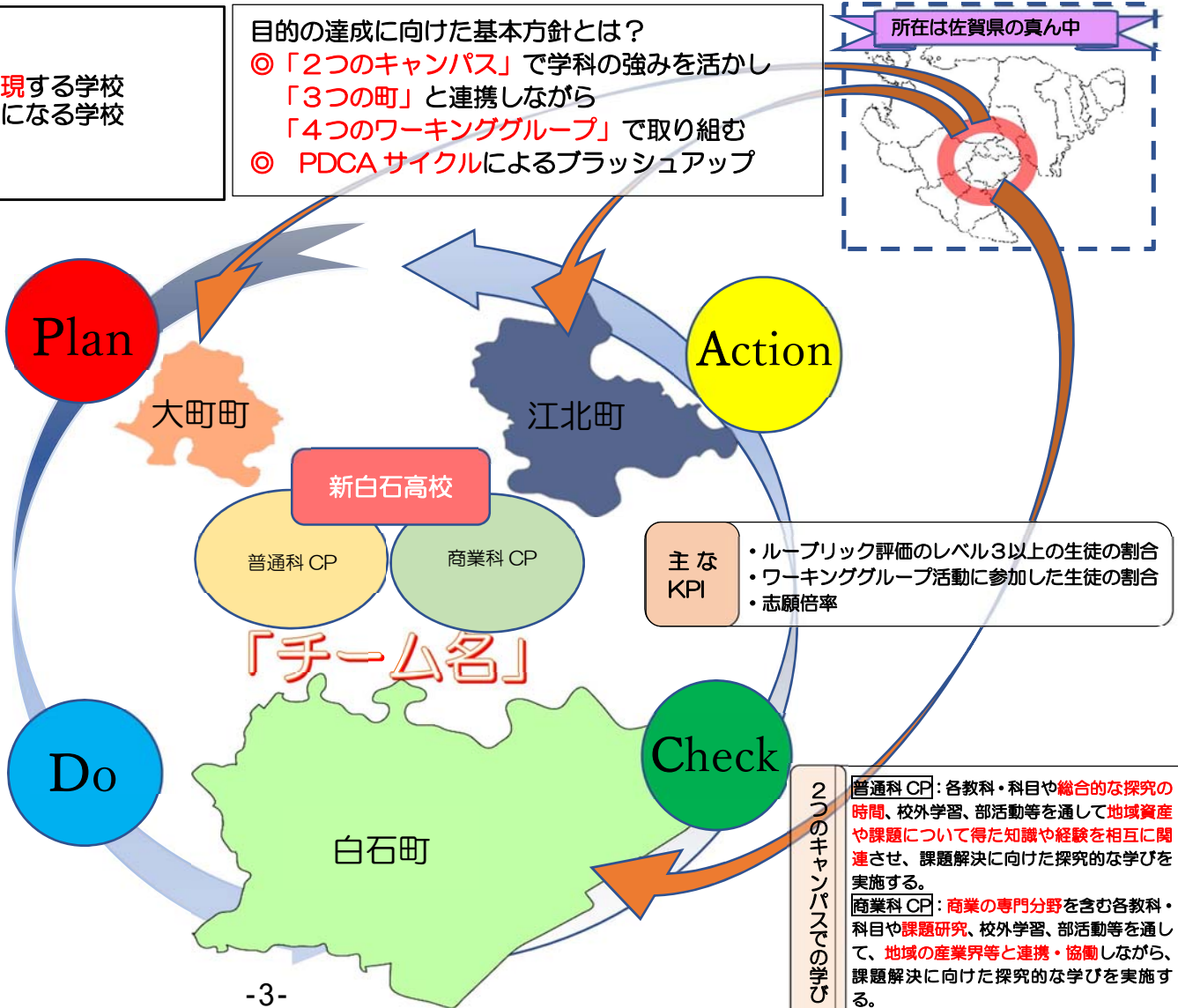
地域の小中学生を対象とし、本校の教育内容の魅力アピールするとともに、小中学生の学習やスポーツへの興味・関心を深め、地域の活力や魅力の向上に向けて主体的に取り組む。
《取組事例》スポーツ教室、プログラミング学習、放課後児童クラブのサポート 等

企業連携 WG

これまで商業科で取り組んできた「きしま学美舎」の活動をもとに、地域企業の意見も取り入れながらビジネス実践力を高める取組を行い、地域経済の現状や課題について考えを深める。
《取組事例》商工会議所主催等のイベントでの販売実習、企業のHP作成、地元企業との共同商品開発 等

地域連携 WG

これまで実施してきた地域ボランティアやシニア層との交流活動を継続しながら、地域からの新たな要望についても検討し、一層の連携を強める。また、生徒が地域の課題に気づき主体的に解決に向けて取り組む姿勢を養う。
《取組事例》地域探究学習、地域ボランティア、シニア向けタブレット教室、地域講師による講演会 等



1 地域連携事業について

平成31年4月から現在までの間、実施した地域連携事業

- ア スポーツ教室（陸上・5/25） イ スポーツ教室（剣道・6/13） ウ チーム名応募（6/7月） エ 西九州大学見学会（7/2） オ 佐賀県高等学校商業教育研究会
カ ワークショップ（魅力ある学校とは？・7/16） キ ドイツスポーツ団との交流会（7/30） ク 中学生対象プログラミング教室（8/1）
ケ 小学生対象プログラミング教室（8/2） コ シニア向けタブレット教室（8/7～9） サ 中学生対象オンライン英会話講座（8/20） シ 佐賀さいこう！企画甲子園（9月）
ス 白石町役場職員による講義（9/30） ソ スポーツ教室（剣道・10/17） タ 白石町副町長講演会（11/6） チ 大町地域おこし協力隊員講演会（11/6）
ツ 販売実習（江北イオン・11/9） テ 販売実習（武雄市・11/16.17） ト 販売実習（江北町・11/17） ナ 地域連携アイデア募集アンケート（11月予定）
ニ 命の教育講演会（12/4実施予定） ニ スポーツ教室（陸上・12月予定） ネ スポーツ教室（剣道・1月予定） ノ その他（自主的に活動したボランティア活動など）

1 参加した地域連携事業に“○”を記入してください。

ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	
サ	シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト	
ナ	ニ	ヌ	ネ	ノの具体的な内容					合計	

2 地域との連携について、今のあなたに当てはまるものを選んで記号を書きなさい。

指標 (めざす学校像)	資質・能力 (伸ばしたい力)	概要	①	②	③	④	⑤
地域との連携を通して、探究的・実践的な教育を実現する	A 知的・好奇心 探究心	地域連携事業を通して、知的好奇心を刺激され、探究的に学習に取り組もうとする。	地域社会の現状について、基礎的な知識を持っている。	地域社会の現状について基礎的な知識を持ち、本やICT等を用いて更に知識を得ようとしている。	地域社会の現状について知識を得るとともに、地域課題に関わる情報を収集している。	地域社会の現状について知識を得るとともに、地域課題の解決に日々の学びを活かそうとする。	地域社会の現状について知識を得るとともに、地域課題の解決に向け、主体的により深く学ぶようとする。
	B 思考力	問題の原因や構造を論理的に深く考え、因果関係を整理して、課題を理解することができる。	与えられた情報の内容を理解・整理することができる。	与えられた情報と学んだ知識を関連させながら、掘り下げて考えることができる。	情報を収集し、学んだ知識も合わせて分析・評価・活用しながら、課題を発見したり、設定したりできる。	情報や知識を総合的に整理し、因果関係を明らかにして、発見・設定した課題を構造的に理解できる。	情報や知識を総合的に整理し、因果関係を明らかにして課題を理解し、解決までの道筋をつけることができる。
	C 実践力・実行力	掲げた目標や解決したい課題に対して、行動を起こすことができる。	全体の目標に対して、ネガティブな言動をせず達成に向けて努力できる。	全体の目標に対して、ポジティブに達成に向けて努力できる。	全体の目標に対して、ポジティブな影響力を発揮し、達成に向けて努力できる。	全体の目標に向け、自らの役割を確実に果たしながら、自発的に達成に向けて努力できる。	全体の目標に対して、メンバーに役割を振り、達成までの道筋を示しながら諦めずに努力できる。
地域活力の向上に生徒自らが貢献できると思うようになる	D 自己肯定感	自分を意味ある存在として考え自信を持ち、課題解決のために自分の役割を見つけ、全力で取り組み、遂行できる。	自分を意味ある存在として考え、物事をポジティブに捉えることができる。	自分に自信を持ち、与えられた課題を自分のこととして捉え、取り組みようとする。	自分に自信を持ち、与えられた課題を解決するために自分の役割を見つけ、主体的に取り組める。	自分に自信を持ち、新たに生じた課題に対して、解決のために責任を果たす努力をし、全力で取り組める。	自分に自信を持ち、新たに生じた課題に対して、解決のために自分の責任を果たし、遂行できる。
	E 自分を振り返り (メタ認知力)、 変えようとする力	自分の言動や行動を高次のレベルから見つめ直し、常に改善しようとする意識を持ち、次の行動に繋げることができる。	自分を向上させるために、自分自身で目標を立てることができる。	自分を向上させるために、自分の目標と現実の差を見つめることができる。	自分の目標に近づく方策を考え、自ら行動することができる。	自分の目標の達成のための行動を、常に自分自身で見直して反省しながら、学び続け、次の行動につなげることができる。	社会の中での自分の役割を考えた上で目標を設定し、過去の行動を振り返りながら、学び続け、次の行動につなげることができる。
	F マネジメント力	自分や組織での取組を計画性を持って進めることができる。	指示を受けながら、作業を自分のペースで作業を実施できる。	指示されなくても自発的に、自分のペースで作業を実施できる。	指示されなくても自発的かつ責任を持って、全体スケジュールを意識しながら作業を実施できる。	組織が必要とされる複数の作業を自ら見出し、全体スケジュールを意識しながら優先順位をつけて実施できる。	全体の流れを把握し、スケジュールを意識しながらメンバーに作業を割り振ることができる。
地域にとって次代の担い手を輩出する	G 主体性	社会を支える当事者としての意識を持ち、地域や国内外の未来を真剣に考えることができる。	所属する集団の一員としての自覚を持つ。	社会の一員としての自覚を持ち、社会の抱える問題に目を向けようとする。	社会をより良くしようという意思を持ち、社会がより良くなるための考えを持つ。	社会に貢献しようとする意欲と自分なりの価値観を持ち、自ら社会に影響を及ぼそうとする。	社会・未来をよくしようとする志を持ち、自分自身の意見を他者に説明し、理解と共感を得ることができる。
	H 寛容的態度	文化や価値観の違う他者を受け入れ、思いやるあたたかさを持ち、協調して共に高めようすることができる。	異なる文化や価値観の違いがあることを知っている。	異なる文化や価値観の違いを理解しようとする。	異なる文化や価値観を尊重する。	異なる文化や価値観を尊重し、受け入れる。	異なる文化や価値観を自分や社会をより良くしていくための重要なものと考えて受け入れられる。
地域に愛され、地域に信頼される	I 協働力	仲間と協力・協働しながら互いに高めあえる行動が取れる。	集団や他者の中で、決められたことや指示されたことに一人で取り組むことができる。	集団や他者の中で、目標達成や問題解決に向けて、積極的に意見を出したり、率先して行動したりできる。	集団や他者の中で、自分の役割を見つけ個性を活かして取り組みながら、身近なメンバーの個性を引き出したり、支援したりできる。	集団や他者の中で、他者の良さに共感し、チームの一員として、共通の目標に向かって協力しながら活動を進めることができる。	集団や他者の中で、互いに良い部分を認め、高め合いながら、厳しいことも指摘できる信頼関係を築き、活動を進めることができる。
	J 地域への愛着・ 地域志向	地域に対する愛着を持ち、地域の良さを認めつつ、地域課題の解決に貢献したいと思う。	地域の歴史や文化、経済等について基本的なことを知っている。	地域の歴史や文化、経済等について、基本的なことに加え、自ら学んでもいる。	地域の歴史や文化、経済等、多様な知識を持ち、その実態を理解している。	地域の歴史や文化、経済等、多様な知識を持ち、その実態を理解するとともに課題にも気付いている。	地域の歴史や文化、経済等、多様な知識を持ち、実態を理解するとともに、課題の解決に貢献したいと思う。

2 地域との連携について、今のあなたに当てはまるものを選んで記号を書きなさい。

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J

アクションプラン (案)

資料5

<平成30年度(2018年度)>

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内容											協働事業の準備 ・学校組織の立ち上げ ・関係町への説明 ・関係町への聞き取り ・2019年度前半の協働事業案作成 ・2019年度予算案作成	

<2019年度>

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内容	チーム編成 WG(ワーキング・グループ)編成	チーム(協議会等)会議 ・チーム顔合わせ ・全体構想検討 ・アクションプラン検討 ・WG事業(前期)の検討等				チーム(協議会等)会議 ・全体構想決定 ・アクションプラン策定 ・WG事業(前期)実践報告 ・WG事業(後期)の検討等		地域連携 アイデア 募集 アンケート	チーム(協議会等)会議 ・WG事業(後期)実践報告 ・2019年度の取組検証 ・2020年度協働事業に向けた改善案の検討等			次年度協働事業の準備
		各WGによる協働事業の準備・実践(2019前期)					各WGによる協働事業の準備・実践(2019後期)					

<2020年度>

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内容	新チーム編成 新WG編成	チーム(協議会等)会議 ・新チーム顔合わせ ・アクションプラン確認 ・2019年度事業報告 ・2020年度事業計画等				チーム(協議会等)会議 ・WG事業(前期)実践報告 ・WG事業(後期)の検討 ・中間報告とりまとめ ・中間報告会実施要領検討等		中間報告会(フォーラム予定)	チーム(協議会等)会議 ・WG事業(後期)実践報告 ・2020年度の取組検証 ・中間報告を踏まえた改善案の検討等			次年度協働事業の準備
		各WGによる協働事業の準備・実践(2020前期)					各WGによる協働事業の準備・実践(2020後期)					

<2021年度>

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	指定終了後
内容	新チーム編成 新WG編成	チーム(協議会等)会議 ・新チーム顔合わせ ・アクションプラン確認 ・2020年度事業報告 ・2021年度事業計画等				チーム(協議会等)会議 ・WG事業(前期)実践報告 ・WG事業(後期)の検討 ・実践報告とりまとめ ・実践報告会実施要領検討等		実践報告会	チーム(協議会等)会議 ・WG事業(後期)実践報告 ・プロジェクト取組検証 ・指定終了後の協働事業の検討等		実践報告書提出		「協働」の継続 ➡ モデルの普及
		各WGによる協働事業の準備・実践(2021前期)					各WGによる協働事業の準備・実践(2021後期)						

分類	タイトル	理由
学 習	自分磨きができる学校	課外活動によって、他校の人たちの考えも知ることができる 社会に出た時のため
	体験学習の多い学校	3年間の目標が決まるような体験を増やす
進 路	進学しやすい学校	推薦などがたくさんある
	資格を多く取得できる学校	普段からでなく、する時にはするという方がメリハリがつく
部 活 動	全国にいける強い部活動がある学校	勉強だけでなく、部活動にも力が入っていて、充実した設備や有名なコーチを呼んだりする 文武両道を目指して、部活動にも結果をのこしたいと思う人が多いと思うから、部活動が強い学校に行きたいと思う人も大分思う
	部活動が強い学校	負けたくない、いつでも1位でいたい、将来自慢できる
行 事 ・ イ ベ ン ト	フェスウィーク（文化祭、体育祭のほか に前夜祭、後夜祭を実施）	自分たちで企画運営するから、自分たちの行動力や責任感が養われる 3年生はいい切り換えができる
	白高祭	BBQ、花火大会、コスプレ大会、ドリンクバー、屋台 芸能人が来る、白高祭の時だけ携帯の使用OK！
	行事が多い学校	行事が多いほうが楽しい 就職する時に少しでも有利になる
	文化祭が盛大な高校	学校が盛り上がり校舎全体で文化祭
	イベントが充実している学校	社会に出た時、コミュニケーション能力が身につけている 友達との出会いが学校生活の刺激となり、いろいろなことに挑戦できる 行事などが思い出になる
国 際 交 流	異国の人との出会い	価値観や文化の共有、いろいろな恋愛ができる 本場の料理を味わえる
	異国の人とのスポーツ、料理、恋愛など の交流	料理もスポーツも恋愛も言語の壁を越えて伝えることができる 色々な国の色々な価値観を知り、世界を知る
	様々な国の人がいる学校	色々な文化を身近に知れる、コミュニケーション能力向上 部活動が強くなる
	交流が多い学校	価値観を上げられる、色々な国の人と交流できる 幅広い情報を交換できる
	学校を超えた国との交流	スポーツや料理など、地域それぞれの伝統文化だけでなく、各国の同世代の人 との価値観を共有したい 想像力が広がることで一人ひとりが学校を良くしようと考え、行動するはず
	修学旅行を海外に	韓国などの国外にも行ってみたい、毎年行って楽しみたい 海外との交流を増やす 日本とは違う文化などを深く学びたい
学 校 環 境	学生食堂はじめました	温かいご飯を皆で食べたいから
	購買部が充実している学校	アイスがあると暑い日も乗り越えられる ポットや電子レンジがあるといろいろなものを食べられる
	昼寝がある学校	皆眠たいから、午後の集中力確保、体力回復 昼寝で頭をリフレッシュ、勉強の効率が上がる
周 辺 環 境	近くに多くの飲食店がある高校	放課後に友達と楽しめる 生徒が企画した限定カフェをオープン 駅は待ち時間が長いので待つ場所が必要 地域の人と白石高校が交流できる
そ の 他	人の話をじっくり聞いてくれる先生が いる	せかさされると、自分の本当の意見が言えないから、じっくりと話を聞いてくれ て同感してくれる先生

「地域とつながる魅力ある高校づくり・白石高校」について

地域との目指す姿の共有について

1. 白石町役場企画財政課との話し合い

① 期日 7月23日(火)

② 出席者 企画財政課2名

学校関係者2名

③ 内容

- ・今年度、企画政策課としては、目指す姿の「地域活力の向上に生徒自らが貢献できると思うようになる学校」について課内で意見を出し合った。
- ・町の色々な催しに高校生が協力をしてほしい。
- ・町の図書館の有効な活用について高校生に考えてもらいたい。
(中・高校生の利用が極端に低い。)
- ・要請があれば、出前講座等の職員は派遣できる。
(学校教育課・企画財政課・長寿社会課・産業課)
1年生(普通科キャンパス)の探究の時間を使っての授業実施(9月30日)
- ・白石町のイメージ等を高校生の視点から聞きたい。
- ・

2. 大町町教育委員会との話し合い

① 期日 7月23日(火)

② 出席者 大町町教育委員会1名

学校関係者2名

③ 内容

- ・今年度、教育委員会としては、目指す姿の「地域活力の向上に生徒自らが貢献できると思うようになる学校」について課内で意見を出し合った。
- ・町の課題を高校生に知ってもらう。
- ・町の色々な催しに高校生が協力をしてほしい。

※江北町は日程の都合が上手く取れなかったため後日に行う予定。

隠岐島前教育魅力化プロジェクト視察報告

1 目的

- ・ 「地域とつながる高校魅力づくりプロジェクト」に係る高校と地域の協働の仕組みをつくるため、先進地域である島根県隠岐島前地区の事例を学び、今後の参考とする。
- ・ 視察プログラムに参加した他県の参加者と、高校魅力化の進め方や課題解決等について情報交換を行い、本校の魅力化向上のヒントを得る。

2 日時

令和元年 6 月 13 日（木）～6 月 15 日（土）

3 視察先

隠岐國学習センター（島根県隠岐郡海士町福井 1339）

島根県立隠岐島前高等学校（島根県隠岐郡海士町福井 1403）

4 行程

6 月 13 日（木） プログラム 1 日目

13:30	隠岐國学習センター集合
13:30～13:45	プログラムの説明
13:45～14:00	参加者自己紹介
13:00～16:15	島前教育魅力化プロジェクト説明・質疑応答
16:15～16:30	三燈寮（男子寮）へ移動
16:30～17:00	三燈寮見学

6 月 14 日（金） 8:55～22:00 プログラム 2 日目

8:55	隠岐島前高校前集合
9:00～10:30	隠岐島前高校概況説明・質疑応答
10:45～12:35	隠岐島前高校授業見学
13:30～17:30	特別プラン（隠岐國学習センター）
13:30	特別プラン説明および導入
14:30～15:30	山内氏（前海士町長）との対話
15:30～17:30	個別セッション及び各団体との情報共有
19:15	再集合
19:30～22:00	高 3 じぶん夢ゼミ特別公開授業「かたラーや」

6 月 15 日（土） 8:00～9:00 プログラム 3 日目

7:55	隠岐國学習センター集合
8:00～9:20	振り返りと学びの共有

5 研修報告

<高校と地域の協働の仕組みについて>

- 高校と地域の協働についての仕組みづくりについて大きな役割を果たしているのは、「コーディネーター」と呼ばれるスタッフである。
- 隠岐島前高校については、募集定員は各学年 80 名の 2 学級規模の高校である。生徒の約半分が島外の生徒であり、県外からも定員の 30%を上限として入学させることができる。島外の生徒の多くは、学校に隣接する寮で生活している。寮生には「島親」が一人ずつおり、休みの日など寮や島親宅で交流を深めているそうである。

また、SGHの指定校であり、シンガポールへの研修旅行の他、ロシアとブータンに 4 名ずつ生徒を研修に行かせている。

職員数は 33 名で、離島振興法の改正により 10 名程度の加算されている。また、ALT 1 名を含む魅力化スタッフが 6 名おり、4 人が常勤コーディネーターとして、「総合的な学習（探求）」や学校設定科目の授業づくりから地域連携の窓口、生徒募集関連業務など多様な業務に関わっている。コーディネーターは県教委所属だが、海士町が雇用している。

<今回の視察の参加者との情報交換について>

- 参加者は全員で我々を含め 25 名程度であり、我々のように複数名での参加もあったが、単身で参加されている方もいらっしやった。「魅力化」という目的は同じでも、様々な立場の方がそれぞれの課題を持って参加されていた。他県の「教育の魅力化」に係る様々な話が聞けて大変勉強になった。

<総括>

- 「隠岐島前高校魅力化プロジェクト」に欠かすことができないのは、いろいろな視点から魅力づくりを考えていける、島外からやってきたコーディネーターの存在である。彼らが新しい視点で「海士町」の地域振興を考えたとき、隠岐島前高校が一つの地域資源だったという見方が妥当かもしれない。

本県の場合とはバックグラウンドがかなり異なるが、本校なりの「県立高校の魅力化」に取り組んでいかなければならないと思った。とは言え、本校が置かれている現状を踏まえると、一朝一夕に結果が出るものではない。着実に進めることと持続可能な取組である必要がある。改めて、本県としての高校の魅力づくりとは何なのか、その中で本校の存在感を高めていく方策はどういったものがあるのか考える必要があると思った。

2019年度前期WG事業報告及び後期WG事業計画

資料9

	期日	取組内容	
		普通科キャンパス	商業科キャンパス
実績	5月16日	第1回チーム会議開催（高校・3町）	第1回チーム会議開催（高校・3町）
	5月25日	小中学校連携事業（白石アスリート（陸上）練習会）	
	6月	学校HPにコンテンツ設置	学校HPにコンテンツ設置
	6月13日	小中学校連携事業（杵島地区剣道合同稽古会）	
	6月13日 ～15日	先進校視察（島根県立隠岐島前高校・隠岐国学習センター）	先進校視察（島根県立隠岐島前高校・隠岐国学習センター）
	6月～7月	3町訪問（魅力ある学校について、連携の在り方について等聞き取り）	3町訪問（魅力ある学校について、連携の在り方について等聞き取り）
	6月～7月	チーム名募集（生徒・職員）	チーム名募集（生徒・職員）
	7月2日	西九州大学（看護学部）体験・見学会【普C18名、商C1名 計19名参加】	西九州大学（看護学部）体験・見学会【普C18名、商C1名 計19名参加】
	7月9日		佐賀県高等学校商業研究発表大会（大町町のトライアル進出に係る取材に基づく報告）→優秀賞受賞
	7月11日	長谷川アドバイザーとの意見交換	長谷川アドバイザーとの意見交換
	7月16日	鳳雛塾による生徒対象ワークショップ「高校生目線の魅力ある学校とは？」（校舎別）	鳳雛塾による生徒対象ワークショップ「高校生目線の魅力ある学校とは？」（校舎別）
	7月30日	ドイツスポーツ少年団受入れ（剣道・ボッチャ体験、インクルージョンに関する討議）	
	8月1日		中学生対象プログラミング教室
	8月2日		小学生対象プログラミング教室
	8月7日 ～9日		シニア向けタブレット教室
	8月20日	中学生対象オンライン英会話（高校一日体験入学で実施）	
	8月23日	「魅力づくりプロジェクト」情報交換会	「魅力づくりプロジェクト」情報交換会
	9月～11月	普商合同チームでの「企画甲子園」参加（一次審査突破）	普商合同チームでの「企画甲子園」参加（一次審査突破）
	9月30日	白石町役場職員からの講義（白石町の抱える課題や将来像、地元の高校生に望むこと等）	
	10月9日	長谷川アドバイザーとの意見交換	長谷川アドバイザーとの意見交換
	10月12日	小中学校連携事業（白石アスリート（陸上）練習会）	
	10月17日	小中学校連携事業（杵島地区剣道合同稽古会）	
	11月6日	白石町副町長講演「白石町の将来について」	
	11月6日		大町町地域おこし協力隊の方の講演及びディスカッション
11月9日		【販売実習】江北町イオン	
11月16日 ～17日		【販売実習】武雄市地域イベント	
11月17日		【販売実習】江北町地域イベント	
11月16日	職業人講話		
11月21日	第2回チーム会議	第2回チーム会議	
予定	11月22日	白石中学校訪問・高校プレゼン（両キャンパス生徒会合同）	白石中学校訪問・高校プレゼン（両キャンパス生徒会合同）
	11月～12月	アイデア募集アンケート（対象：生徒、職員、地域住民）	アイデア募集アンケート（対象：生徒、職員、地域住民）
	12月3日 ～4日	先進校視察（京都府立京都すばる高校、京都市立堀川高校、大阪府立ビジネスフロンティア高校）	先進校視察（京都府立京都すばる高校、京都市立堀川高校、大阪府立ビジネスフロンティア高校）
	12月4日	いのちの教育講演会（生徒・保護者・地域住民）	いのちの教育講演会（生徒・保護者・地域住民）
	12月頃	スポーツ教室（陸上）	
	12月頃		プログラミング教室
	1月頃	第3回チーム会議	第3回チーム会議
	1月頃	スポーツ教室（剣道）	
	3月頃	次年度協働事業検討会議	次年度協働事業検討会議

令和元年度命の教育講演会実施要項

資料 10

1 目的

将来の社会を担う高校生に対し、事件・自己被害者遺族の方々の講演を通じて、被害者の方々が受けた心の痛み、子どもを亡くした親の思い、生命の大切さ、被害者も加害者も出さない社会を希求する真摯な願いを伝えることで、規範意識の向上を図る。また、本講演会を地域の方々へ案内し、講師の思いを地域の方々と共有することで、生命の尊さを改めて認識し、自分や家族だけでなく、他人の命を大切に思う気持ちを育み、地域社会の安全・安心について考えるきっかけとする。

2 日時

令和元年12月4日(水) 14:20開場 14:45～15:45

3 場所

杵島郡白石町大字今泉138-1
佐賀県立白石高等学校(普通科キャンパス) 体育館

4 内容

演題「犯罪被害者遺族の想い」
講師 清水 誠一郎 氏

5 参加者

生徒 656名 職員 77名 及び 地域の方

命

白石

高校



教育



入場料無料

定員
100名

演題

「犯罪被害者遺族の想い」

2019年 **12月4日(水)**

講演

14:45~15:45 「開場」 14:20

会場

白石高等学校（普通科キャンパス）

「体育館」

◎自転車の方は、学校駐輪場をご使用ください。

◎駐車場に限りがございますので乗り合いでのご来場のご協力をお願いいたします。

◎駐車場の事故・盗難については責任を負いかねますのでご了承ください。

-1◎地域とつながる高校魅力づくりプロジェクト

地域連携事業アイデア募集アンケート実施要領（案）

1 目的

高校と地域の連携事業に係るアイデアを地域の方々から広く募り、地域ニーズや地域の課題について考察するとともに、実施可能性や効果も勘案しながら、本プロジェクトWG事業へ反映して取り組むことで、今後の事業の充実を図る。

2 募集期間

令和元年11月29日（金）～令和2年1月31日（金）

3 募集方法

(1) アンケート用紙による募集

- ・ 3町の役場に協力してもらい、アンケート用紙（無記名）と提出箱を設置し、月末に回収する。学校への持参や郵送についても受け付けるものとする。

(2) メールによる募集

- ・ 学校HPに「地域連携事業アイデア募集アンケート」のコンテンツを作成し、メールで応募してもらう。提出先のメールアドレスは、新システムの新白石高校のものとする。

shiroishikoukou-n@education.saga.jp

4 選考方法

- (1) 第3回チーム会議までに、取り入れることが可能で効果的なアイデアを事務局で選び、事務局案を作成する。
- (2) 第3回チーム会議で事務局案を検討し、アイデアを取り入れるWGや実施する時期等について決定する。
- (3) 令和2年度のWG事業案に反映する。

5 公表

- ・ 応募総数や採用案等については、学校HPにより公表する。

白石・杵島商業・新白石版「地域とつながる高校魅力づくりプロジェクト」

地域連携事業のアイデアを募集します！

今年度、本校は佐賀県教育庁教育振興課から、地域との協働による高校の魅力づくりプロジェクトのモデル校として指定を受けました。この事業は、本校と本校が所在する白石町、大町町及び関係の深い江北町の3町が協働・連携することで、『地域の元気度アップ!』『学校の魅力度アップ!』を目指そうというものです。

現在、学校で育成すべき資質・能力は、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」等にとどまりません。「学びに向かう力・人間性」を育成し、学んだことを人生や社会に生かすことも求められています。この要請に応えるためには、教室で授業を受けるだけではなく、主体的に体験的活動に取り組んだり、協働や対話によって他者の考えも受け入れながら自分の考えを広げ深めたりすることが必要です。地域連携事業の取組が、持っている知識を関連付けたり、課題を発見したり、問題解決力や創造力等を高め、持続可能な地域社会の担い手育成につながっていくと考えています。

本年度この事業に着手して以来、スポーツ教室やプログラミング教室、講演会や地域をテーマとした研究活動等、様々な取組をしてきましたが、より一層地域とのつながりを強め、『地域の元気度アップ!』『学校の魅力度アップ!』を達成するため、下記の要領で地域の皆様から本校と地域との連携事業のアイデアを募集したいと思います。奮ってご応募ください。

記

1 応募期間

令和元年11月29日(金)～令和2年1月31日(金)17時まで

2 応募方法

- (1) 応募用紙に記入して、備え付けの箱に提出
- (2) パソコンなどから新白石高校あてメールにて提出
(メールアドレス

shiroishikoukou-n@education.saga.jp)

3 公表方法

- ・ 応募総数や採用案等については、学校HPにて公表



切り取り線

白石・杵島商業・新白石版「地域とつながる高校魅力づくりプロジェクト」

地域連携事業アイデア募集！

アイデアの例：子育てサークルの絵本の読み聞かせを生徒に手伝ってほしい。
桜の時期に学校でお花見をさせてほしい。



<私のアイデア>

